

キトーハンディブロック

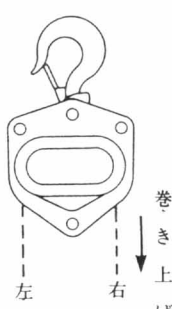


故障の原因と対策 (CF形)



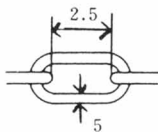
1. 故障の発生

- ◆ **危険** チェンブロックの状態になにか異常を感じたら、ただちに操作を中止して、異常の原因を調査して下さい。
- 故障発生の原因は、誤った使い方による場合が多く見られます。取扱説明書をよく読み、正しい使い方をしましょう。
- 分解修理が必要なときは、別冊分解組立マニュアルを参照して正しく行って下さい。
- 修理は専任の保守管理者に任せるか、キトーにご相談下さい。(又は巻末のサービスネットワークの中からお近くのサービスショップにご相談いただいても結構です)

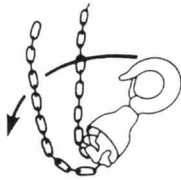
2. 故障の原因と対策

- ◆ **危険** ■ 部品交換修理が必要なときは、キトー純正部品以外使用してはいけません。

状 況	原 因	対 策
<p style="text-align: center;">▲ 注意 音も故障の有無を判断する重要なポイントです。 日頃から、チェンブロックの作動音にも注意して下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>巻上げ不良</p> <p>1. 荷が巻上げられない。</p> <p>① ツメの音がかすかにする。</p> </div>	 <p>■ ツメグルマの組立不良。 * ツメグルマが図のように裏返しに組まれていると、ツメとツメグルマが正しく噛み合わない。</p> 	<p>■ 例えば巻上時のツメ音で判断 正常：カチカチという連続音がでます。</p> <p>■ ツメとツメグルマの噛み合いを正しく再組立する。 * 組立終了後は、必ず作動テストしツメ音を確認する。</p> 

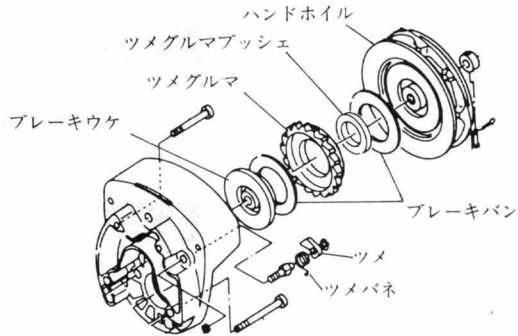
状 況	原 因	対 策
<p>② ツメの音が全くしない。</p>	<p>■ ツメの組立不良。 * ツメが逆の向きに組立られている。</p>  <p>■ ツメの機能不全 * 長期間、未整備のためツメジクがごみや油により固着し、ツメがツメグルマと噛み合わない状態になっている。</p> 	<p>■ ツメの向きを正しく再組立する。 * 組立終了後は、必ず作動テストしツメ音を確認する。</p> <p>■ 定期的に、オーバーホールを実施の事。 * ツメバネの劣化も考えられる。よく、チェックする事。</p>
<p>2. 荷が巻上がったたり巻上がらなかつたりする。</p> <p>① ツメの音が小さかったり、不規則。</p> <p>② ハンドチェンのスリップ。</p>	<p>■ ツメバネの劣化によるツメのもどり不良。 * バネが弱るか折損している。</p> <p>■ ツメバネの組立て忘れによるもどり不良。</p> <p>■ ツメ又は、ツメグルマの歯の摩耗。 * 長期間の高頻度使用による摩耗、噛み合い不十分。</p> <p>■ ハンドホイルのスプロケットの摩耗。</p> <p>■ ハンドチェンの伸び、摩耗。</p> <p>■ ハンドチェンのサイズ違い。</p>	<p>■ 使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施の事。</p> <p>■ 正しく再組立終了後、必ず作動テストしツメ音を確認する。</p> <p>■ 使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施の事。</p> <p>■ 使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施の事。</p> <p>■ 適正なハンドチェンを使用する事。</p> 

状 況	原 因	対 策
3. 荷は正常に巻上がるが、ツメの音は弱い。 (規則正しい音)	■ ツメバネの劣化によるツメの力不足 * バネが弱るか折損している。	■ 使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施の事。
4. 無負荷でも手引力が重い。(時々、きしみ音がでる)	■ ギヤの噛み合い不良。 * ギヤの歯面の摩耗。 * ボールベアリングの摩耗、破損。 長期間、未整備のため潤滑能力が低下し、各 부품の摩耗、破損が生じる事もある。	■ 定期的に、オーバーホールを実施の事。
5. 途中までは上がるが、それ以上は巻上がらない。	■ シタフックのトンボ (2t, 3t).	■ 使用前にシタフックのトンボがない事を確認する。



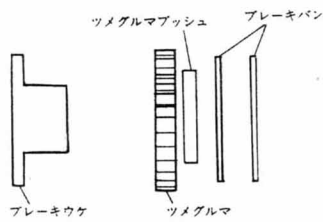
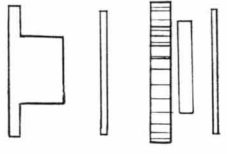
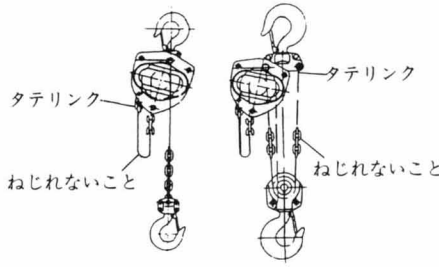
巻下げ不良

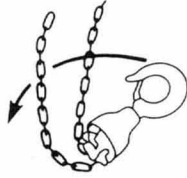
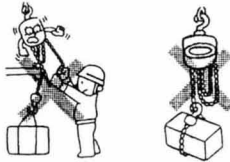


▲ 注意 巻下げ不良は、主にブレーキ部の不具合によるものです。



▲ 注意 乾式ブレーキです。ブレーキ面に油を塗らない事。

1. 巻下げ不能。	■ ブレーキの締めすぎ。 * 荷をかけたままの長時間放置。 * 作業中のショック。 ■ 錆付きによるブレーキ部の締めり。	■ ショックをかけてハンドチェンを強く引いて巻下げ、ブレーキをほどく。 ■ 錆び付いた部品を交換する。なお定期的にオーバーホールを実施の事。
2. 巻下げを始めた瞬間、荷が落下した。	■ ブレーキ面に大きなごみが入ったとき。 ■ 著しい錆びによるブレーキ面のすべり。	■ 分解の上、ごみを取って拭き取り再組立する。 * 万一、ブレーキ面にきずがある場合は部品を交換する。 ■ 錆び付いた部品を交換する。なお定期的にオーバーホールを実施の事。

状 況	原 因	対 策
<p>3. 荷がずるずる滑る。</p> <p>ロードチェン</p> <p>1. 摩耗の発生。</p> <p>2. 傷、変形の発生。</p>	<p>■ ブレーキバンの組立不良。 * ブレーキバンを一方だけに入れたり、又は一方を組み忘れた時。</p>  <p>■ ブレーキ面に小さなごみが入ったとき。</p> <p>■ ブレーキバンの摩耗。 * 長期間の高頻度使用によるブレーキ部品摩耗。</p> <p>■ 油ぎれ。 * 長期間の高頻度使用。</p> <p>■ 組立不良によるロードチェンのねじれ。</p>	<p>■ 図のように、正しく再組立する。 * 組立終了後は必ず作動テストを行う事。</p>  <p>■ 分解の上、ブレーキ面のごみを拭き取り、再組立する。 * 万一、ブレーキ面にきずがある場合は部品を交換する。</p> <p>▲ 注意 組立時、ブレーキ面をきれいに拭く事。</p> <p>■ 使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施の事。</p> <p>▲ 注意 ロードチェンは重要保安部品の一つ。正しい取扱い、点検を含めた安全管理を徹底して下さい。</p> <p>▲ 注意 ロードチェン交換時は、クサリピンも同時に交換する事。</p> <p>■ 取扱説明書にもとずき、常にマシン油を塗っておくこと。又、定期的にオーバーホールを実施の事。</p> <p>■ 分解組立マニュアルにもとずき、正しくロードチェンを組込む事。</p> 

状 況	原 因	対 策
<p>3. 錆、腐食の発生。</p> <p>4. ロードチェンの切断。</p>	<p>■ シタフックのトンボ（2t、3t）。</p>  <p>■ 荷物と外物との接触。</p>  <p>■ オーバロードによるピッチの伸び。</p> <p>■ 油ぎれ</p> <p>■ 雨ざらしでの使用</p> <p>■ 海水、薬品等の影響</p> <p>■ 上記1～3やショックロードを含めた複合要因である事が多い。</p>	<p>■ 使用前に、シタフックのトンボがない事を確認する。</p> <p>■ チェンの直巻きは行わない事。</p> <p>⚠ 危険 定格荷重を超えた荷を吊らない事。</p>  <p>■ 使用環境に応じた安全管理の徹底。</p> <p>⚠ 注意 使用しないときは必ず屋内につり下げて保管すること。</p>  <p>⚠ 注意 錆に強いCLチェンもあります。特殊環境での使用に関してはキトーに相談下さい。</p> <p>⚠ 危険 ロードチェンの切断は死亡事故を含む重大事故の原因にもなります。正しい取扱い、日常点検、定期点検を含めた適正管理を実施の事。</p>

状 況	原 因	対 策
<p>フック</p> <p>1. 口が開く。</p> <p>2. 首部のまがり。 (シャンク部)</p>  <p>3. ねじれ。</p> <p>4. フックラッチのはずれ。</p>	<p>■ オーバーロード。 * 定格の2倍を超える荷重をかける と徐々に広がる特性となっている。</p> <p>■ 先端で荷を吊る。</p>  <p>■ 吊り具の掛け方が悪かったり、 フックに対し不適當な大きさの 吊り具の使用。</p>  <p>■ 先端で荷を吊る。</p>  <p>■ 荷をチェンを巻きつけた。</p>  <p>■ オーバロードによるフック の変形。</p> <p>■ フックの大きさに不適當な 吊り具の使用。</p> <p>■ フックラッチにスリング をかける。</p>	<p>▲ 注意 取扱説明書にもとづき、正しく使用することがフックの不具合を防止する第一歩です。</p> <p>◆ 危険 フックの口の開きは、オーバーロードの警告です。定格荷重を超えて、荷を吊らないで下さい。</p>  <p>■ フックの中央で荷を吊る事。</p>  <p>■ 作業に適した吊り具を選ぶ事。 ■ スリングの角度は120°以下とする。</p> <p>◆ 危険 首部折損の原因にもなります。フックの中央で荷を吊る事。</p> <p>■ チェンの直巻きは行わない事。</p>  <p>■ 正しい玉掛け作業を徹底する事。</p>